

2021年12月20日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社
 代 表 者 名 代表取締役 武内 博文
 (コード番号：4579)
 問 合 せ 先 管理・経営企画部門長 須藤 正樹
 (TEL. 052-446-6100)

中期経営計画の修正に関するお知らせ

当社は、2021年6月30日に公表した2021年12月期～2023年12月期中期経営計画に関し、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 売上・損益目標修正の概要

【見直後】

(百万円)

	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益(△)
2021年度通期(計画)	2,798	2,090	707	848	750
2022年度通期(目標)	2,928	2,372	556	563	464
2023年度通期(目標)	3,009	2,327	681	686	561

【見直前】(2021年6月30日公表)

(百万円)

	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2021年度通期(計画)	2,246	2,184	61	184	118
2022年度通期(目標)	2,928	2,372	556	563	464
2023年度通期(目標)	3,009	2,327	681	686	561

2. 修正の理由

当社は、最近の業績動向等について検討した結果、2021年6月30日に公表しました『2021年12月期～2023年12月期中期経営計画』の修正を行うことといたしました。

修正の背景は、主として、2021年12月期におけるロイヤルティ収入の増加ならびに新たな導出契約締結によるものです。

主な増減要因は、以下の通りです。

2021年12月期の事業収益につきましては、前回発表予想比551百万円(同24.6%)増加する見通しとなっております。これは主に、胃食道逆流症治療薬「tegoprazan(一般名)」の韓国における販売が前連結会計年度に比べ拡大基調で推移していることのほか、今般の久光製薬株式会社との新規ナトリウムチャンネル遮断薬に関するライセンス契約締結によるものであります。当社の事業収益は、導出済み医薬品の売上高に応じたロイヤルティ収入、新たな導出契約締結に伴う契約一時金収入、提携先企業にお

※本資料は、投資者に対する情報提供を目的として事業計画等を記載しており、投資勧誘を目的としたものではありません。

当社の事業計画に対する評価及び投資に対する決定は、投資者ご自身の判断において行われるよう、お願いいたします。

ける研究開発の進展に応じたマイルストーン収入等で構成されておりますが、今回の見直しの結果、当連結会計年度のロイヤルティ収入は1,186百万円、その他の収入（契約一時金収入ならびにマイルストーン収入を含む）は1,612百万円と予測しており、前回発表時に行った収益予測と比べて、それぞれ、4.3%と45.2%増加する見通しであります。事業費用につきましては、前回発表予想比93百万円（同4.3%）減少する見通しとなっております。これは主に、前臨床試験を含む委託試験等の研究開発費が翌期にずれ込んだことによるものであり、研究開発費は前回発表予想比129百万円（同27.7%）減少する見込みであります。また、人件費は中途採用に伴う費用の増加や未払賞与の計上に伴い114百万円（同17.0%）増加する見込みであります。その他、外国為替変動の動向を勘案し、営業外収支等の見直しを行っております。

以上の結果、2021年12月期の業績予想を事業収益2,798百万円（前回発表予想値2,246百万円）、事業費用2,090百万円（同2,184百万円）、営業利益707百万円（同61百万円）、経常利益848百万円（同184百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益750百万円（同118万円）に修正いたします。

2022年12月期および2023年12月期の事業収益につきましては、前回発表予想からの変更はありません。

当社は、今回公表する中期経営計画の修正に基づき、新経営体制による新たな事業計画の遂行を進めてまいります。今後、当社の事業環境の変化等により修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示してまいります。

※修正箇所は、次ページ以降をご参照下さい。

以 上

※本資料は、投資者に対する情報提供を目的として事業計画等を記載しており、投資勧誘を目的としたものではありません。
当社の事業計画に対する評価及び投資に対する決定は、投資者ご自身の判断において行われるよう、お願いいたします。

(修正箇所一覧表)

修正箇所	修正前	修正後
今期の業績予想 および今後の業 績目標 (P16)	(※表内) 計画 2021年12月期 事業収益 <u>2,246</u> 事業原価 <u>289</u> 事業費用 <u>1,895</u> 営業利益 <u>61</u> 経常利益 <u>184</u> 当期純利益 <u>118</u>	(※表内) 計画 2021年12月期 事業収益 <u>2,798</u> 事業原価 <u>314</u> 事業費用 <u>1,776</u> 営業利益 <u>707</u> 経常利益 <u>848</u> <u>親会社株主に帰属する当期純利益</u> <u>750</u>
事業収益計画の 概要 (P17)	(※図 (棒グラフ)) 2021年 事業収益 <u>2,246</u> ロイヤルティ <u>1,136</u> その他 <u>1,110</u> (※説明テキスト) 2021年 <u>その他は、旭化成ファーマ社、マルホ社お よびSyros社からマイルストーン受領等</u>	(※図 (棒グラフ)) 2021年 事業収益 <u>2,798</u> ロイヤルティ <u>1,186</u> その他 <u>1,612</u> (※説明テキスト) 2021年 <u>マイルストーン収入および新たな契約締結 の一時金により、その他収入が16億円に到 達</u>
研究開発費の概 要 (P18)	(※図 (棒グラフ)) 2021年 研究開発 <u>469</u> 研究 <u>456</u> 開発 <u>13</u> (※説明テキスト) 2021年 <u>対前年比196%の研究開発費を投じ、開発 候補化合物創出(※)に向けた取り組みを 推進</u> <u>目標：2023年までに2個の開発候補化合物 を創出</u>	(※図 (棒グラフ)) 2021年 研究開発 <u>339</u> 研究 <u>295</u> 開発 <u>44</u> (※説明テキスト) 2021年 <u>グレリン受容体作動薬の前臨床試験用原 薬製造を完了し、前臨床試験に着手。 開発候補化合物創出(※)に向けた取り組 みを推進</u>

※修正後の「中期経営計画（2021年12月期～2023年12月期）」の修正箇所を抜粋したものを次ページ以降にお示しします。今回の修正箇所には下線を付しております。

※ 将来の事象に関わる記述に関する注意

業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

※本資料は、投資者に対する情報提供を目的として事業計画等を記載しており、投資勧誘を目的としたものではありません。
当社の事業計画に対する評価及び投資に対する決定は、投資者ご自身の判断において行われるよう、お願いいたします。



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社

【2021年12月20日修正】

2021年12月期～2023年12月期

中期経営計画

2021年6月30日 東証ジャスダック グロース：4579

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。



修正前後の差異に関するご説明

中期経営計画

RaQualia
innovators for life

単位：百万円

修正前 <small>2021年6月30日公表</small>	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2021年度通期（計画）	2,246	2,184	61	184	118
2022年度通期（目標）	2,928	2,372	556	563	464
2023年度通期（目標）	3,009	2,327	681	686	561
修正後 <small>2021年12月20日修正</small>	事業収益	事業費用	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2021年度通期（計画）	2,798	2,090	707	848	750
2022年度通期（目標）	2,928	2,372	556	563	464
2023年度通期（目標）	3,009	2,327	681	686	561

2021年

新たな導出契約締結により、事業収益は前回発表比551百万円（同24.6%）の増加。
委託試験等の研究開発費が翌期にずれ込んだことにより、事業費用は同93百万円（同4.3%）減少。

2022年

変更なし

2023年

変更なし

※本ページにおける事業費用はP.16記載の事業原価と事業費用を合算した額です。



RaQualia
innovators for life

財務計画・事業目標

収益計画・事業費用・事業目標

※修正後の「中期経営計画（2021年12月期～2023年12月期）」の修正箇所（P16～P18）を抜粋したものを次ページ以降にお示しします。今回の修正箇所には下線を付しております。



今期の業績予想および今後の業績目標

中期経営計画

RaQualia
innovators for life

2021年12月期は**黒字達成を目指し**

2022年からバリューアップのため**自社臨床開発を目指す**

単位：百万円

	計画	目標	
	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期
事業収益	2,798	2,928	3,009
事業原価	314	277	237
事業費用	1,776	2,094	2,090
営業利益	707	556	681
経常利益	848	563	686
親会社株主に 帰属する 当期純利益	750	464	561
為替（米ドル/日本円）	110.00	110.00	110.00

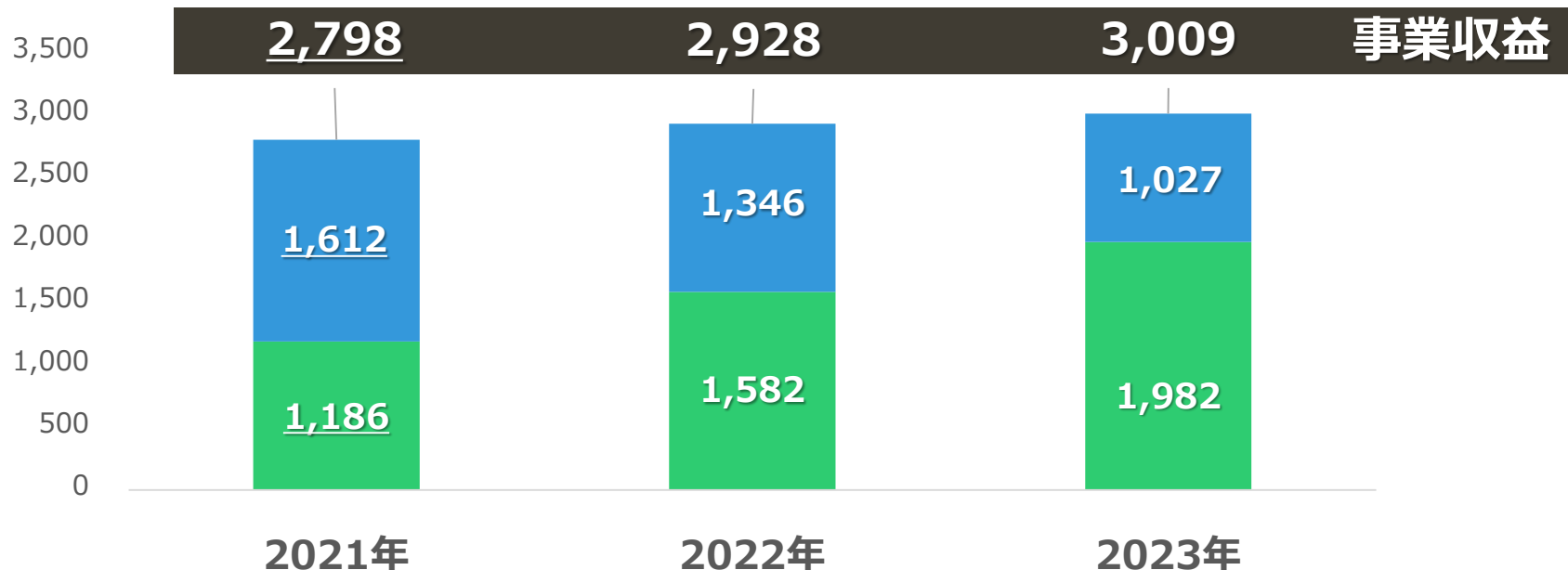


事業収益計画の概要

RaQualia
innovators for life

■ ロイヤルティ ■ その他（契約一時金・マイルストーン）

単位：百万円



2021年

テゴプラザンを中心に医薬品の販売が堅調に伸び、販売ロイヤルティが11億円に到達
マイルストーン収入および新たな契約締結の一時金により、その他収入が16億円に到達

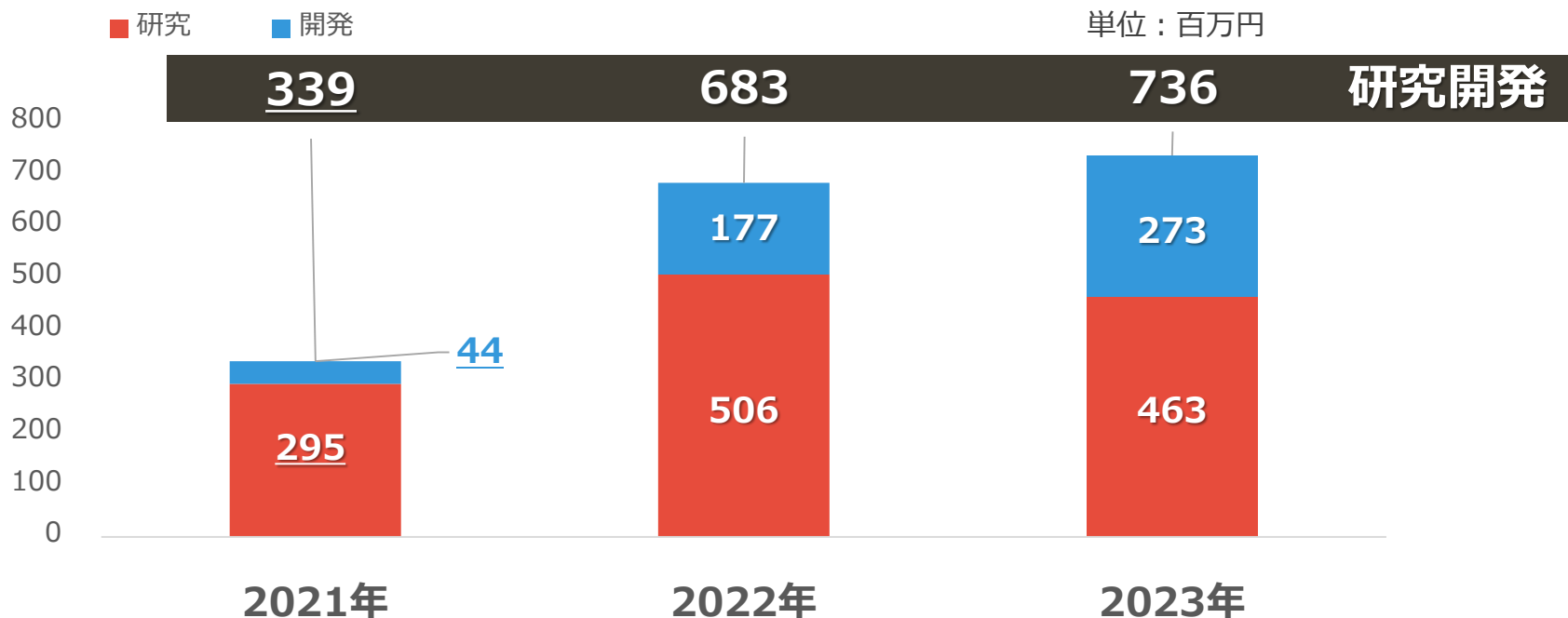
2022年

Q1にテゴプラザンの中国上市が見込まれており、販売ロイヤルティが15億円に到達
その他は、テゴプラザンの中国承認および上市によるマイルストーン受領等

2023年

テゴプラザンを中心に医薬品の販売が堅調に伸び、販売ロイヤルティが19億円に到達
その他は、開発中の医薬品からのマイルストーンや探索段階のシーズの新規契約等

※契約一時金・マイルストンの最大化を目指していますが、現時点では導出先探索中であるため、数値計画上は成功確率等を勘案しております。



2021年

グレリン受容体作動薬の前臨床試験用原薬製造を完了し、前臨床試験に着手。
開発候補化合物創出(※)に向けた取り組みを推進

2022年

自社開発の実施に向け、グレリン受容体作動薬の前臨床試験ほかで177百万円を支出
探索研究プログラムの進展および新領域・新技術開拓を目的として資金を投下

2023年

研究開発費は前年水準からさらに増加（対前年比7.8%増額）
選抜した1プログラムの臨床開発準備費用を中心に開発費273百万円を支出予定

本中期経営計画書における研究開発費は研究開発部門の人件費を含みません。
※開発候補化合物：前臨床試験以降の段階に進める新薬候補化合物。当社では開発候補化合物の前臨床試験以降を「開発」としています。

私たちは創薬を通じて健康と幸せに貢献し、
人々の心に陽をもたらします



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社